

また、議長に通告した事項を質問してください。通告内容に関係しないと思われる質問は、回答ができないことがございますので、御注意願います。

本日の登壇は4人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。会派未来改革、8番議員の糸瀬雅之でございます。一般質問に入ります前に、この対馬市ケーブルテレビを通しまして、対馬市民の皆様にお礼をまず申し上げたいと思います。

先月5月18日執行の対馬市議会議員選挙におきまして、私、糸瀬雅之、市民皆様の温かい御支援をいただき、2期目の当選をさせていただきましたことに、まずもって厚く御礼と感謝を申し上げます。

今後は、対馬市の山積をする課題解決に向けて全力で取り組み、子供から大人まで誰一人取り残さなく、多くの市民が豊かで安心して、そして安全に対馬で生活できますよう精いっぱい頑張っております。皆様、よろしくお願いをいたします。

先週金曜日より新たな議長、副議長の下、令和7年第2回対馬市議会定例会が始まりました。本日より一般質問が始まりますが、今日から3日間、12名の登壇者が予定をされております。私、糸瀬雅之が一般質問のトップバッターを務めさせていただきます。市長はじめ各部長の皆様、私が納得いく答弁のほうよろしくお願いをいたします。

それでは、通告をしておりました一般質問に入らせていただきます。

まず1点目は、今回の対馬市議会議員一般選挙の結果についてでございますが、今回の対馬市議会議員一般選挙の当選者、現職10名、新人7名の結果を踏まえ、対馬市民の今回の選挙の争点は何であったと考えられるのか、市長の答弁をお願いいたします。

次に、2点目ですが、対馬市議会議員一般選挙の結果を踏まえ、市長の市政運営への今後の考えの変化及び対馬市の喫緊の課題解決に向けての取組や、新たな新規事業などに取り組む考えや計画はあるのか、答弁をお願いいたします。

最後に、学校給食費についてでございますが、今年度より食料品や米の価格高騰により、学校給食費の値上げによる子育て世帯家庭への家計の負担が増えております。対馬市として、今後、保護者に対しまして補助金の活用は考えられているのか、答弁をお願いいたします。

以上、2項目3点について、明確そして簡潔な答弁をお願いいたします。よろしくお願い申し上げます。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市議会議員一般選挙の結果を踏まえ、対馬市民の選挙の争点は何であったかと考

えられるかとの質問でございますが、今回の選挙で現職議員10人、新人議員7人が当選され、新しい顔ぶれとなりました。初当選されました議員の皆様の平均年齢は48歳と非常に意欲ある若い世代が当選されたことに対し、市政の新たな局面を迎える期待を感じております。加えて、市民の皆様が変化を求め、新しい力に期待している現れだと認識しております。

当選されました議員の選挙公約では、市民に開かれた市政運営と議会改革といったものが複数見られ、より透明性が高く、市民の皆様の声が届きやすい市政、または議会運営への強い要望があったものと認識しております。

今回の選挙におきましては、市民目線による施策、そして、行政と議会との連携を一層強化することを期待する市民の皆様からの力強いメッセージが反映された結果と考えられます。

次に、選挙の結果を踏まえた、私自身の市政運営への今後の考えの変化及び本市の喫緊の課題や新規事業等への取り組む考えはあるのかとの質問でございますが、私自身が進める市政運営、そして喫緊の課題は、議員の皆様が選挙公約で掲げられております思いと同じであり、私が考える施策について変化はございません。

本市が抱える喫緊の課題である人口減少対策、若者・子育て世代が希望を持てるまちづくり、そして本市の持続可能な発展を支える農林水産業、観光業といった基幹産業の活性化につきましては、その重要性を深く認識しております。

昨今の物価高騰や燃料費の高騰に対する継続的な支援につきましても、引き続きその必要性を感じております。さらに、安心安全な暮らしを支える医療・福祉の充実、社会的弱者への支援、道路整備、防災など、市民の皆様が日々の生活を安心して暮らせるための基礎的なインフラやセーフティネットの充実も重要な課題であります。

なお、環境分野をはじめとした新たな取組を進めるに当たっては、議員各位の御意見や専門的な知見が不可欠であると考えております。市民の皆様の代表であります議員の皆様とともに、誰一人取り残さない対馬の未来を見据えた議論を重ね、具体的な新規事業へとつなげてまいります。

次に、2点目の学校給食についてでございますが、今年度に入り、対馬市内の全ての小中学校において、物価高騰による食料品の値上げの影響を受け、給食費も昨年度と比較して高くなっている現状であります。

昨年度の給食費と今年度の給食費を比較しますと、小学校においては、昨年度の年額の平均は3万8,000円でございますが、今年度は年額4万6,000円となっており、約8,000円の値上げとなっております。

中学校においては、昨年度の年額の平均は4万6,000円でありましたが、今年度は年額5万6,000円であり、約1万円高くなっております。

市といたしましては、保護者の負担増分について軽減するために、この差額分につきまして全

額相当を補助することとし、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金により、令和7年度対馬市一般会計補正予算（第3号）にて計上する予定でございます。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今日は市長の答弁が簡潔でありましたので、私が40分持ち時間がございますので、ゆっくり答弁をしていきたいと思います。

まず、学校給食のほうから順番を変えまして、先にさせていただきたいと思います。この学校給食の質問なんですが、私も昨年、ちょうど1年前、令和6年6月定例会でこの質問をさせていただき、約1年ぶりの質問になります。今回、対馬市議会議員一般選挙でいろんなところに遊説、その他回っていったときに、この問題が子育て世代の保護者の皆様の要望が一番強かった質問をさせていただきます。

市長は、今、対馬市の子供たち、常々、島の宝、この宝ということを常々言われていますが、市長に昨年も尋ねましたが、今、対馬市内の小学生、中学生、児童生徒の数は把握はされていすでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小中学生合わせて1,840人ということで理解しております。これは、今年度4月1日の資料でございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 私と近い数字ですけど、私が把握しているのは、小学校1,126名と中学生が611名ということで1,750名前後ですね。そして参考までに、ゼロ歳児から5歳児までが幼児、保育所に通う子供たちが728名、そして対馬3高校に通う生徒508名。対馬市全体の18歳未満の子供の数、これは高校生まで約3,000人前後と認識しております。これ、対馬市の2万6,700人の人口によると11.2%ぐらいしか、子供たちの数ですね、約11%にすぎないんです。

しかし、学校の給食費の問題、物価の高騰。先ほど物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金による補助を今回の追加補正予算ですという予定でよろしいでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今議会で追加補正予算を考えております。令和7年度対馬市一般会計補正予算（第3号）において計上する予定であります。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 分かりました。学校給食費の無償化の問題につきましても、今年度、令和7年2月に自由民主党、公明党、日本維新の会において、令和8年度からは全国の小学

校で完全無償化の合意がされております。しかし、中学校については、まだ完全無償化には至っておりません。長崎県の自治体でも、いろんな自治体も中学校の給食費無償化、小学校の給食費無償化いろいろ取り組まれておりますが、今がやはりこの経済的な負担というのは、保護者にとっては非常に大きい問題でございます。先ほど市長のほうで、昨年と同様の給食費にするということで、補正予算を組むということで、大変保護者にとってはありがたい部分ではございます。

しかし、今後、中学校の給食費無償化、補助になる場合、ふるさと納税、私が思うのは、給食費の無償化の財源がやっぱり必要だと思います。この必要な財源、ふるさと納税が、行政側がどう考えられているか分かりませんが、やはりふるさと納税が一番重要になってくるんじゃないかなと思っておりますが、令和7年度の今年度のふるさと納税の目標金額を、市長ないし部長のほうで、目標が立ててあるのであれば答弁をお願いします。

○議長（春田 新一君） しまづくり推進部長、藤田浩徳君。

○しまづくり推進部長（藤田 浩徳君） お答えいたします。

今年度のふるさと納税の目標額は、当初予算で4億円ということで計上いたしております。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） ふるさと納税は4億円の目標ということですね。もっと大きな目標を持ったほうがいいんじゃないですか。4億円という。去年も3億幾らの目標だったですよ。もっと大きく、市長はじめ行政側も大きな希望を持って、このふるさと納税は目標を持っていけないと、財源が対馬市は大変厳しいと思いますよ。

教育部長のほうにお尋ねをします。今、学校給食費の、いろいろ全国で無償化、無償化と言われています。対馬市の小学校、中学校、例えば、今年度無償化にするという場合、どれぐらいの予算、小学校で幾ら、中学校で幾らというのが試算されていけば答弁をお願いします。

○議長（春田 新一君） 教育部長、扇博祝君。

○教育部長（扇 博祝君） 失礼いたします。完全無償化した場合、必要な所要額につきましては、小学校で約7,500万円、中学校で約5,300万円を見込んでおります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 物価がいろいろ上がっていますので、小学校で繰り返しますけど、約7,500万円、中学校で約5,300万円、合わせて約1億3,000万円ぐらいですかね。完全無償化にした場合、約1億3,000万円ぐらいですね。大変この財源がなかなか難しいと思います。

例えばですよ、今先ほど市長は、去年からの増加分を補正予算で組むということではなかったけど、もう少しですね補助、もう少しできないか。私は、やっぱり給食費は、大変今、給食費

だけでなく、いろんな教材費とか、子供たちに係る教材費であつたり体操服であつたり、いろんな部分がかかっております。それで、小学校は部活、子供たちも中学校も部活に係るいろんな部分でお金が非常にかかっております。

それで、今私が調べた中で壱岐市。お隣の壱岐市は、令和5年度から給食費の小学校に対する補助、中学校に対する補助をやっております。壱岐市は、今、家計の負担は幾らか。子供1人当たり1か月幾らか、市長、御存じでしょうか。分かりませんか。壱岐市は1人当たり子供2,000円です、給食費。中学校が2,500円です。これは、給食費の補助を令和5年度から壱岐市はずっとやっているんです。ですから、子供たちの小学校の保護者は2,000円で支払いをしております。中学校は2,500円ということで。やはりこの子育て世代、この子育て世代という、市長はずっと今まで子育て世代に取り組まれておりますけども、対馬市として、こういった子育て世代が充実をする。壱岐市は、この子育て世代のやはり支援が充実をしておりますので、こういったところに移住者とか子育て世代は、壱岐市を選んでやってくるんです。ですから、対馬市ももう少し魅力ある補助ができないか。もう一度答弁をお願いします、市長。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに議員おっしゃられるように、給食費の助成額をもう少し引き上げてまいりたいということは、常々考えているところではございますけども、まず初めに、先ほど議員もおっしゃられたように、令和8年度から、まず小学校の給食費を完全無償化するということで、首相のほうで申し述べておられます。このことにつきましては、長崎県の市長会、そして全国の市長会でも、このことは最重要事項ということで3項目の中に上げて、国のほうに要望をしてまいりました。その成果がやっと令和8年度から小学校においては何とか実現ができたということで、今後は中学校も同じように力強く要望を重ねてまいりたいというふうに考えております。

これまでの議会のほうでも答弁してまいりましたように、学校給食費としては、保護者の負担軽減をするためには、やはりそこは公平にするために、国の政策として実施すべきものというふうに私自身考えておりますので、今後もですね、確かにその必要性は十分認識しているところではあります、その以前に、まず、次は中学校の無償化に向けて力強く要望をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 中学校のほうには、来年は、今のところまだ無償化ではありませんが、中学校のほうにも、今後この補助は必ずやっていただけるんですよね。市長、それは約束できますよね。無償化になるまでですね。それは約束をしていただきたい。しかし、その金額が壱岐市みたいに、人口も壱岐市は、対馬市に比べて子供人口はちょっと少ないですけども、壱岐

市にできて対馬市にできないことはないと思うんですよね、市長。ですから、もう少し補助率を上げていただいて、小学校、中学校も2,000円台で給食が食べられるように、そして質のいい給食。そこをもう少し答弁をお願いします。市長、もう一回その答弁をお願いします。給食費、もう少し補助ができませんか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在も給食費としましては、1食当たり小学校が約350円、中学校が1食当たり約450円。そういった単価で今給食はされているところでございますけども、質については、私が聞いたところによりますと、他の自治体に比べても遜色ない給食の内容になっているということはお聞きしているところでございます。そして、その給食費の単価については、まず小学校は令和8年度から国が完全無償化ということになりますので、中学校の給食費については、今後のまた議論を重ねた上で検討とさせていただきたいというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 1点ちょっと確認をしたいんですが、先ほど、今回の補正でその分は補正予算に入れると言いましたけども、今4月、5月、6月に支払いをされている給食費は、それも対象になるということですかね。今4月、5月、6月に保護者が支払いをされている分の給食費についても、補助対象にさせていただけるんですかね。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） これはですね、一応、また今度の令和7年度対馬市一般会計補正予算（第3号）におきまして詳しく説明はさせていただこうとは思っておりますけども、年間ということで今計画しているところでございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 分かりました。ぜひ給食費については、確かに全国の子供たちのことは、国が対象として本当はやっていただきたい。しかし、今、国の財源だけを待っていても、なかなか先に進まない。それで、壱岐市は先行して令和5年度から補助をやっております。対馬市もやはりそういった補助をもう少し頑張っていただいて、今後、中学校については令和8年度からは補助対象にさせていただきたい。そのように要望しておきます。

今、中学校、小学校言いますけど、高校生、これは余談ですけども、対馬市に高校生が今500名ぐらい、対馬3校でいます。今後、対馬市の高校生の通学に使ういろいろな定期、通学定期とか高校の寮生活、そういった方々へのもう少し、今後、今回の一般質問には関係ありませんけども、補助対象として検討する余地があるのかなと思っております。

大変財源が厳しいこの対馬市におきまして、給食費の補助、ほかの、私だけでなく、これは保護者の皆様の切なる願いでございますので、今後、検討に向けて頑張っていただきたいと思います。

ます。

次に、まず今回対馬市議会議員一般選挙の争点についてでございますけども、今回新たに新人の議員の皆様が7名、現職が10名、新しい顔ぶれとなりました。今回、市長、先ほども答弁で言われていましたように、対馬市を思う新たな議員の皆様が今回当選をされまして、様々な考えを持って、今回対馬市議会議員一般選挙に立候補され当選をされたと思います。

今回の対馬市議会議員一般選挙ですけども、市長が力を入れてある海のごみの問題、海のごみですね、その問題を争点で行かれる議員さんもいるのかなと思ったんですけども、やはり選挙告示前から、いろいろな高レベル放射性廃棄物の問題、そういったことも私は争点にもなっていたのかなと。今回、市長は、以前、文献調査は受け入れませんとはっきりと表明をされました。市民の分断、そして風評被害を言われていました。市長任期中は、私は絶対受け入れませんと。我々市議会議員も推進の議員も、それは争点にはしたくありませんでした。しかし、選挙告示前から、いろいろな核のごみですね、いわゆるそういう話題に争点をされていたと私は認識をしておりました。

しかし、今、私たち推進議員、そして反対をされる議員は、お互い対馬市を思っていることで、この結果が、このような私は結果になったと、そう理解をしております。そして市長は、この問題があったと思いますか、なかったと思いますか。答弁をお願いします。その争点。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身も、対馬市議会議員一般選挙の演説関係も聞いておりましたし、各議員候補の皆様の何と申しますか、ポスター関係も見させていただきました。そういう中で今議員がおっしゃられるように、特定放射性廃棄物の問題におきましては、確かに声を大きくして反対を申し述べておられた候補者、そしてまた、その一方、この問題には全く触れられていなかった候補者の皆様、いろいろな候補者の皆様がおられたというのは事実だろうというふうには思っております。そのような中、最終的な得票数を見ますと、推進をされてきた議員候補の皆様にとりましては、ちょっと得票数が若干厳しい結果が出たのではなかったかなというふうには思っております。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 大変厳しい結果が出た。そうですね、ごもっともでございます。しかし、今この結果を一概に推進、反対というわけでも私はなかったんじゃないかなと思っております。

まず、今私は市議会議員として、今やらなければならないこと。今当選された17名ですね。今、対馬市の物価の高騰であったり、経済対策、そして人口減少をどう食い止めるか。このよう

なことを、今我々はやっていかなきゃならない。今言う高レベル放射性廃棄物の問題もございませうけども、それはそれで置いておいて、今やらなければならないことは、こういった喫緊の課題に向けて、議員が一丸とならなければならないと思います。

今、私たちの、皆さん分かってあるかどうか分かりませんが、核抜き条例、この核抜き条例という動きもございませう。これは市長のほうに耳に入っていますでしょうか。耳に入っているのであれば、もしこの条例を、例えばです、この動きがある場合、メリットはあるのかなのか。市長、どうでしょう。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにそのような動きがあることは承知いたしておりますけども、このことにつきましては、やはりこのことによって、また市民の分断が深まることになってはいけないという、私は強い思いを持っております。そういう意味におきまして、慎重な判断が必要なものというふうに思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今このような動きもあるというふうに認識は私もしております。

しかし、せっかく当選された新人の議員さんを含め、このような問題に賛否を問わせるのは、私は、我々先輩議員の役目ではないと。笑われている議員もいらっしゃいますけども、失礼でございませう。将来の若い世代の皆さんに対しても、まだまだこの問題は、文献調査をはじめ概要調査、精密調査までのしっかりとした情報提供をまず与える時間もまだ必要でございませう。

そして、今、対馬市議会は何をしていかなければならないか。今、市議会、各異業種の団体、令和8年3月に期限を迎える有人国境離島法の延長に向けて、力を結集しなければならないこの時期に、このような条例の話とか力を入れる一部の議員、そして市民団体を、私ははっきりと言って、このようなことをやるべきじゃないと私はそう思っております。県や国に対して、今、対馬市としてのイメージ、これが非常に悪くなると認識をしております。市長、この件については、国や県へのイメージとしてはどう思われますか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 国や県に対するイメージということでもありますけども、要はいろんな方々がいろんな考え方をされるというようなことで、先ほども答弁いたしましたように、私としては議論を深めてすることが重要であって、そしてまた、このことによって、先ほども申しまして申し訳ありませんが、再度また分断を深めるようなことがあってはならないということだけ考えております。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（８番 糸瀬 雅之君） 市長が今そのように答弁をなされております。我々は、まず有人国境離島法に向けて、しっかりと市議会、そして対馬市として、そして市民の皆様で一つになれば、この有人国境離島法延長に向けてやらなければならないと理解をしていただきたい。議員の皆様も、対馬市民の皆様、そして、この核抜き条例をつくるほうが先なのか、有人国境離島法の延長に力を入れるほうが先なのか。どちらが対馬市の発展につながるのか、よく考えていただきたいと思います。この件については終わりたいと思います。

次に、今後の市長の市政運営に変化があるのかないかという質問でございますけど、やはり先ほどから申しますように、対馬市の課題、先ほど市長のほうも物価の高騰、燃油高騰、様々なことを挙げられています。私は、市長、先ほど市長にも先に配りましたけども、自分は自分の公約を掲げて立候補いたしました。その中で、私は対馬市の財源、歳入について、中心とした政策を掲げました。私もまずは議員定数の削減、そしてふるさと納税の倍増、いろんな観光業、観光地観光客等の入島税、そして宿泊税、そして費用対効果のない無駄な事業廃止、そういった部分で、何か市長、私の公約に同感する部分はございませんでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の今リーフレットを頂いたわけでございますけども、この中で確かに再生可能エネルギーの推進とか、ふるさと納税の倍増計画、こういう計画については、私もこれは賛同して今後進めていきたいというふうに思っておりますし、今議員がいろいろと多種にわたって書いてありますが、このことについて、私がこれは反対だというようなことは別にございません。私もこのことについてはあくまで目標としてこのようなことは考えながら、今後、市政を進めていかなければならないというふうに考えているところであります。

○議長（春田 新一君） ８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番 糸瀬 雅之君） 市長は今３期目、もう１年が経過をいたしました。残り任期３年を切りましたが、市長は公約として、世界最先端のSDGｓ未来都市に向けて、５つの未来創造戦略を掲げて取り組まれておりますが、市長が今１年を過ぎて、成果は今どうかなというのは、市長、正直なところどうでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） SDGｓ未来都市としての成果といたしましては、すぐに目に見えるものはなかなかありませんけども、ただし、今現在開催されております大阪・関西万博におきまして、１週間「対馬ウィーク」と題して、この対馬の環境問題、そして海ごみ問題、このようなところを対馬の中学生、そして高校生も含めたうえで対馬の関係者の皆様も会場に入って、世界中にこのことを発信いたしました。この反響は大きく、今後、対馬市のSDGｓを進めていく上で有効な、効果的なものになるものというふうに私自身確信しておりますし、会場でいろいろと

助言をしていただきました民間企業の皆様からも力強い支援等の言葉をいただいたところでございます。今後も、対馬市がSDG s 未来都市として、あまりこれを言い過ぎるとまた言われるんですけど、本当に誰一人残さない対馬の未来を見据えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 市長も我々も6月、対馬ウィークに行かせていただきまして、やはり市長が言われる、世界に向けて、対馬市の対馬モデルを非常に発信ができたと思っております。

それで、やはり発信だけではできませんので、これから、今、世界中からの海岸漂着ごみに関する一番期待するのは、寄附金であったり、ふるさと納税であったり、そういったことを私は期待するつもりで、自分の中でふるさと納税倍増ということで10億円。これを、今年度無理かもしれませんが、来年度に向けて、いろんな国から、そして全国からこの対馬に、恐らく市長もそれを考えてあると思います。

今市長は、令和6年の3月の市長の施政方針で、サラヤ株式会社さんの再資源化や再生可能エネルギーの創出に向けた研究開発の進捗をします。そして、環境負荷の低いエネルギー地産地消を目指して、木質バイオマス事業を実施しますと、こう答弁されているんですよ、自分の施政方針で。これを、また今後新たに水素社会、対馬の水素社会に向けて、再生可能エネルギーに取り組んでいくという、いま一度この決意をお願いしたいんですけども。市長、どうでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身、再生可能エネルギーにつきましては、太陽光そして風力、そしてバイオマス等、いろんな形の再生可能エネルギーの創出がございますけども、対馬で本当に、この対馬が独立電源の島として、エネルギーを変換していくということにつきましては、やはり洋上風力から得る電力によって、ここ対馬で水素をつくって、その水素による発電、そしてまたこの水素を島外に持ち出すということが、一番望ましい姿ではないかというふうに考えております。

この5月におきましても、今経済産業省の副大臣であります古賀先生のほうからも、水素エネルギーの件につきましては講演もしていただきました。そういう形で、今後、メインをこのような再生可能エネルギーに向けて力強く進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今市長のほうから、対馬に合った再生可能エネルギーをやっていくということで、我々も議会のほうとしてもいろんな勉強して、対馬に何がいいのか、どうやっ

たら皆さんが経済が回るのかという、いろんなことを考えながら進めていかなければならないと
思っております。

そして、私、1個、市長のほうから出なかったと思うんですが、私新聞を見ていると最近で
すね、国家公務員が地域の課題解決のために、自治体をサポートする政府の制度、新たな人材の
取組として、地方創生伴走支援制度。これを国家公務員、外務省、環境省、国土交通省の3名の
職員が、1年間の期限で対馬市に3人。全国で60の市町村に配置をされ180名ですかね、全
国で。その中で唯一、長崎県で対馬市が選ばれたということで、3名です、国家公務員。これ
をもう少し皆さんにアピールしたらどうでしょうか。我々もちょっと報酬とかいろいろ分かりま
せんので、これはどういった、北部対馬アクションプランを策定するということですかね。もう
一回お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この支援制度は、国のほうが地方創生に資するということでつくられ
た制度でございます。これにつきまして、対馬市が手を挙げたら、そこで3名の支援官を送って
いただけるようになったということで、この3名の支援官は、今、上対馬町、上県町、北部地域
のほうで北部対馬アクションプランを策定しているところでございますけども、この北部対馬ア
クションプランの策定におきまして、特に助言をしていただくということで、対馬に来島いただ
くようしているところでございます。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。時間が来ていますので、簡明に。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 分かりました。市長もいろいろと、あと11名の一般質問がござ
います。大変でしょうけども、市長、私が言いたいのは、あと残された任期2年10か月余りで
ございます。大変大きな、もっと大きなビジョンを持って、市長、取り組んでいただきたい。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） これで、糸瀬雅之君の質問が終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を11時5分からとします。

午前10時52分休憩

午前11時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。9番、陶山莊太郎君。

○議員（9番 陶山 莊太郎君） 皆様、おはようございます。新政会、9番議員の陶山莊太郎で